



活動報告書

学習雑誌「ラファエック」を通じた自立支援事業

報告期間：2025年1月1日～2025年12月31日

CARE東ティモール



事業概要

事業名	学習教材「ラファエック」を通じた自立支援事業
目標	子どもと識字率の低い成人の学力と家族の福祉の向上に貢献する
成果	<ul style="list-style-type: none">・ 男女の学力向上・ ジェンダー平等と家族の社会的・経済的福祉の向上・ 事業の持続可能性の向上

事業期間

開始日と終了日	2022年7月1日～2027年6月30日
総事業費	7,471,522.00ドル
報告期間	2025年1月1日～2025年12月31日

報告者

作成者	マルセリーノ・マーティンズ事業部長
承認者	ピーター・グッドフェローCARE東ティモール事務局長
報告日	2025年2月2日

目次

活動情報.....	2
目次.....	3
略語一覧.....	5
1. 要旨:.....	6
2. 主な活動実績.....	7
2.1 学習雑誌「ラファエック」の制作.....	7
2.2 ラファエック誌の配布.....	7
2.2.1 学校配布マップ.....	9
2.3 コミュニティとのかかわり.....	10
2.3.1 コミュニティ対話.....	10
2.3.2 ラファエック・ジャーナリズム活動.....	11
3. 投資と収益.....	12
3.1 移行プロセス.....	12
3.2 ラファエック戦略的投資.....	13
3.3 2025年の収益創出.....	14
3.4 戦略的・運営上の障壁.....	16
3.5 デジタルエンゲージメントとアウトリーチ.....	16
3.6 メディア対応.....	17
3.6.1 ラファエック・キイク学生ジャーナリスト.....	18
3.6.2 ラフェイク・若手ジャーナリスト.....	19
4. 戦略的関与.....	20
4.1 東ティモール政府との戦略的関与.....	20
4.1.1 教育省との連携.....	20
4.1.2 保健省との連携.....	22
4.1.3 平等担当国務長官との連携.....	22
4.1.4 国家行政省との連携.....	22
4.2 民間セクター関与.....	23
4.3 ビーチ清掃イニシアチブ.....	24
4.4 ボランティアプログラムへの取り組み.....	24
4.4.1 JICA数学教師ボランティア.....	24
4.4.2 ニュージーランド海外ボランティアサービス (VSA).....	25
5. モニタリング、評価、説明責任、学習.....	26

5.1	調査結果：コミュニティ誌.....	27
5.1.1	コミュニティ誌の利用状況.....	27
5.1.2	健康と栄養.....	28
5.1.3	農業と生計手段.....	29
5.2	調査結果：教員版.....	29
5.2.1	ラファエック教員版の活用.....	29
5.2.2	教育実践への影響.....	29
5.2.3	教室での活用.....	30
5.2.4	配布とアクセシビリティに関する教師のフィードバック.....	30
5.3	調査結果：特別教員版.....	30
5.4	調査結果：キイク誌.....	31
5.4.1	キイク誌の活用状況.....	31
5.4.2	識字能力への影響.....	31
	調査結果 プリマ誌.....	32
5.4.3	授業観察.....	33
6.	横断的課題：.....	33
6.1	GEDSI（ジェンダー平等・社会包摂・保護）とセーフガード.....	33
6.1.1	性的ハラスメント・搾取・虐待の防止と保護.....	33
6.1.2	GEDSI関連内容と活動.....	34
6.1.3	ジェンダー作業部会.....	35
6.2	子どもと若者のエンパワメント.....	36
6.3	関連性.....	36
6.4	効率性.....	37
6.5	持続可能性.....	38
7.	別添書類および添付書類.....	39
7.1	別紙A：事例.....	39
7.1.1	教員版の事例.....	39
7.1.2	教員特別版の事例.....	40
7.1.3	コミュニティ誌の事例.....	40
7.1.4	プリマ誌の事例.....	41
7.1.5	キイク誌の事例.....	42
7.2	別添B：オンラインコンテンツリンク情報.....	43

略語一覧

AJAR	アジア司法・人権
BNCTL	東ティモール国立商業銀行
CEO	最高経営責任者
EBC	中央基礎教育省
EBF	基礎教育支部
EMB	男性と男子を巻き込む
ENFORDEPE	国立教員・教育専門家研修機関
GBV	ジェンダーに基づく暴力
GEDSI	ジェンダー平等、多様性、社会的包摂
GPQ	プログラムの質
HATUTAN	Hahán ne'ebé Atu fó Tulun ho Nutrisaun no Edukasaun
ILO	国際労働機関
LLM	ラファエック・ラーニング・メディア
MEAL	モニタリング、評価、説明責任、学習
MFAT	ニュージーランド外務貿易省
MoE	教育省
MoH	保健省
PNTL	東ティモール国家警察
PSHEA	性的嫌がらせ、搾取および虐待の防止
RAEOA	オエ・クセ・アンベノ特別行政区
RHTO	Raes Hadomi Timor Oan
ユニセフ	国連児童基金
VSA	海外ボランティア活動
XGRR	シャナナ・グスマン読書室

1. 要旨：

本年次報告書は、2025年1月1日から2025年12月31日までの学習教材「ラファエック」を通じた自立支援事業の実施状況を包括的にまとめたものです。CARE東ティモールが管理・実施する本事業は、東ティモール全土における教育セクターの発展を推進する旗艦イニシアチブです。質の高い、かつ文化的に適切な学習教材の作成と配布を通じて、基礎的な読み書き能力と計算能力の強化、教員能力の支援、そして全国の児童とコミュニティのための包括的教育の促進を目指しています。

東ティモールで2001年に開始された本事業は、教育の質の向上、指導力強化、東ティモールの社会経済発展の促進において、引き続き極めて重要な役割を果たしています。この長きにわたる事業は、CAREと東ティモール政府、主に教育省との戦略的パートナーシップであり、2022年から2027年にかけてニュージーランド政府から外務貿易省を通じて多額の財政支援を受けています。

この新たな取り組みでは、CAREは識字能力、計算能力、批判的思考力、自信の向上において変革的な成果を推進するとともに、ジェンダー平等、障がい者の社会的包摂、衛生の原則を組み込んでいます。本事業はまた、女子の意思決定におけるリーダーシップを推進し、女性の声を拡大し、革新的な教授法を導入しています。教室の外では、農業、保健、栄養における家庭内実践の改善を促進し、東ティモール全土の家族の経済的回復力と社会的福祉の向上に貢献しています。

ラファエック誌は重要な補助学習教材であり、教育省の指導要領に沿って慎重に開発されています。技術諮問作業部会が各号を審査・検証し、正確性、品質、関連性を確保したうえで印刷・学校配布を行っています。

これらの雑誌は、就学前児童、小学生、教員、識字率の低い世帯を対象としており、教室での学習と家庭での読解力育成の両方を支援しています。公平なアクセスを促進するため、すべての印刷版はwww.lafaek.tlでデジタル版も提供されており、特に都市部の家庭や学校が様々な環境で学習を継続できるようにしています。

2025年、ラファエックは以下のような多様な教育教材を制作・配布しました：

- **キイク誌 345,252部**：未就学児と小学1～2年生対象
- **プリマ誌 413,703部**：小学3～6年生対象
- **教員向け雑誌 36,688部**：就学前教育機関と小学校教員対象
- **教員向けテーマ別版 9,721部**：教員対象の授業計画強化のための参考資料
- **コミュニティ誌 328,849部**：世帯・保護者対象、東ティモール全世帯の約46%に到達
- **デジタル版**：都市部の受益者がオンラインでアクセス

2. 主な活動実績：

2.1 学習雑誌「ラファエック」の制作

本報告期間中、ラファエック誌は3号分（年に3回配布）のコンテンツ開発と教育普及活動を完了しました（2025年版第2号・第3号、2026年版第1号）。全コンテンツは、就学前教育および基礎教育サイクル1・2における教育省指導要領に完全に準拠した体系的な開発プロセスを経ており、ラファエック誌が学校と地域社会にとって信頼できる補助学習教材であり続けることを保証しています。

3号を通じて、48校が実地評価、事前テスト、およびレビュー活動に参加しました。これには21の幼稚園、23の基礎教育サイクル1～2校、4つの中央学校または私立・宗教学校が含まれ、教育レベルと学校タイプのバランスの取れた組み合わせを提供しました。

各号は、完全な制作サイクル（カリキュラムマッピング、草案作成、内容分析、フィールドテスト、正式なレビュー）を経ていきます。対象となる4つの雑誌向けにコンテンツが作成されました：ラファエック・キイク誌（未就学児・1～2年生向け）、ラファエック・プリマ誌（3～6年生向け）、ラファエック・バ・マノリン誌（教員向け）、コミュニティ誌（コミュニティ・保護者向け）。スポンサーメッセージは、学習目標と対象読者層に適切と判断された場合にのみ追加されました。

経験豊富な教育者6名からなる教師ワーキンググループが各号のレビューで重要な役割を果たしました。彼ら・彼女らは2日間のレビューセッションに参加し、授業との整合性、教室での活用方法、教授法について実践的なフィードバックを提供しました。

各号において政府省庁、カリキュラム機関、ENFORDEPE、MFATプログラム調整官から20～22名の代表者で構成される外部審査委員会により、品質と政策順守が強化されました。同委員会の役割は、全コンテンツが国家基準を満たし、支援機関の優先事項を支援することを保証することでした。

各号は最終承認前に現地での事前テストを実施。教師（教授法と活用法）、生徒（理解度と関心度）、家族（関連性と文化的適合性）からフィードバックを収集し、これらの結果に基づき全号を改訂し、コミュニティのニーズに応えるための強力な改善プロセスを実践しました。

2.2 ラファエック誌の配布

2021年ラファエック影響評価の結果を踏まえ、ラファエックは東ティモールの生徒や家庭において最も広く利用され、しばしば唯一の読書教材であり続けています。テトゥン語で入手可能な唯一の教材であることが多く、識字能力開発に不可欠な存在です。子ども向け読み物がある世帯の89%がラファエックのみに依存しています。評価では、生徒の識字スコアとラファエックへの関与（物語の読解や雑誌掲載の単語ゲームの記憶など）の間に強い正の相関関係が確認されました。

家庭では主に、ラファエックを一般的な学習支援（69%）、読み書きや計算の指導（32%）、物語の読み聞かせの促進（22%）に活用しています。教室と家庭の両方でラファエックを積極的に活用する生徒は、そうでない生徒と比べて読解の流暢さと理解力が著しく高いことが示されました。この効果は保護者の関与によってさらに強化され、91%の保護者が家庭で読解指導にラファエックを利用しています。

2025年1月1日から12月31日までに、ラファエックは全国的な普及を達成し、以下の学校を含む1,791校に導入されました。

- 500の就学前教育機関
- 102のユニセフ支援のコミュニティベース保育園
- 1,189の公立・私立小学校

学校・家庭・協力機関向けに配布されたラファエック誌の総発行部数は1,167,656部で、内訳は以下のとおりです。

- 未就学児と小学1～2年生向けキイク誌345,252部（男子59,658部、女子55,426部）。このうち障がいのある児童は男子平均49名、女子平均27名。さらに協力団体向け667部、学校図書館向け25,209部。
- プリマ誌は3～6年生に413,703部配布され、男子71,709名、女子66,192名（うち障がいのある男子47名、女子35名）の平均総数が対象となりました。さらに648部は協力者向け、16,640部は学業達成度評価用でした。
- 教員向け雑誌は36,688部が就学前教育と1～6年生の教員に配布され、平均で男性4,273名、女性5,584名（うち障害のある教員は男性5名、女性1名）が対象となりました。さらに413部は協力者向け、6,700部は学校図書館向けでした。
- テーマ別号は年間指導参考資料として、男性教員4,262名、女性教員5,459名に計9,721部配布されました。
- コミュニティ誌は、各号平均107,043世帯に328,849部、パートナー機関に7,721部が配布されました。

さらに、教室学習を補強するため25,643枚の教育ポスターを制作・配布しました。

- キイク誌ポスター 8,075枚
- プリマ誌ポスター 13,943枚
- 教員向けポスター 3,771枚

これらのポスターは視覚的参照ツールとして設計されており、教員と生徒がラファエック誌内の関連コンテンツを迅速に特定・関連付けることを可能にします。これにより、ラファエック誌の活動や物語に直接リンクすることで授業内容を補強し、能動的学習を促進するとともに、教育者が日常の授業にインタラクティブな遊びを基盤とした学習アプローチを取り入れることを支援します。

学校における雑誌配布の正確かつリアルタイムな追跡を確保するため、本事業ではデジタル技術を活用し、生徒・教員情報および配布雑誌数を記録します。配布部数は各クラスの在籍者数・出席リストと照合され、適切な配分が確認されます。

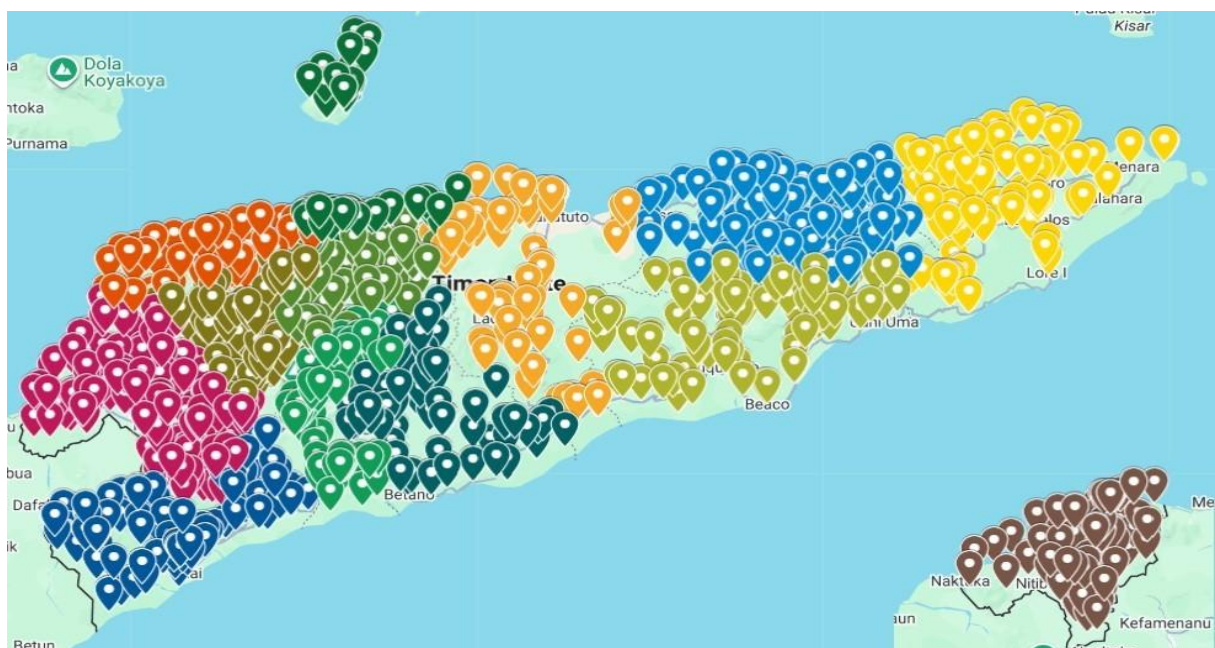
配布後、事業チームは現地で学校のGPS座標を収集し、実際の訪問を確認します。その後、学校長、コーディネーター、または担当教員にタブレット上で電子署名を求め、配達を検証します。

各学校からの配布データは全て自動的にサーバーにアップロードされ、現地監督者や管理者が閲覧・監視できます。このシステムにより、雑誌がリアルタイムで対象受益者に直接届けられることが保証されます。

2.2.1 学校配布マップ

2025年、ラファエック誌は東ティモール全土の1,791の幼稚園・小学校に配布されました。内訳は幼稚園500校、小学校1,189校で、このうち102校はユニセフとアロラ財団が設立したコミュニティベースの幼稚園です。2025年には新たに22校が特定され、その大半は政府または民間機関によって新設された幼稚園です。

雑誌は1,791校すべてに配布されましたが、表示されている地図には1,689校のみが示されています。これは、事業チームが完全なGPS座標を収集できた場所のみであるためです。残りの学校はユニセフおよびアロラ財団のパートナーを通じて配布されましたが、適切な配布システムが利用できなかったため、GPSデータは収集されませんでした。



ラファエック配布校の位置を示す地図

視認性向上のためオエクセが右下に表示されていますが、相対的な位置関係は地理的に正確ではありません

2.3 コミュニティとのかかわり

2.3.1 コミュニティ対話

報告期間中、事業チームは東ティモールの全自治体の14の村において、計14回のコミュニティ対話セッションを実施しました。これらの対話には、男性284名、女性369名を含む計653名が参加し、そのうち男性2名と女性5名が障がい者でした。

これらのセッションの主な目的は、コミュニティ誌の主要メッセージと内容を普及させ、地域社会が正確で地域に即した教育・社会開発コンテンツを受け取ることで地域社会の意識を高め、参加者が経験を交換し、共通の課題を特定し、潜在的な解決策を議論し、直接的なフィードバックを収集できるようにすることでした。これにより、将来のセッションの継続的な改善に役立てます。

オープンで参加型の場を創出し、家族が自らの優先事項を表明し、地域意思決定に積極的に貢献することを促すことで、事業チームに貴重な知見を提供し、雑誌の内容を実際のコミュニティのニーズに合わせて洗練・調整することが可能となりました。これらのセッションにより、コミュニティメンバーはラファエック誌の内容が日常生活にどの程度関連しているかを振り返り、将来のテーマの優先順位を特定することができました。



2025年7月25日、エルメラ県ハトリア地区レイメア・ソリン・パルにて、コミュニティ対話を開催
ILO代表が参加者にバナラ支援のコンテンツを配布

この取り組みの主な強みは、様々な分野にわたる幅広い参加を実現し、対話セッションを集結させた点です。コミュニティメンバー、伝統的指導者、村や市町村当局、および教育省、保健省、農業省、国家行政省などの主要省庁の代表者、東ティモール警察（PNTL）の市・行政ポストおよび国家警察がラファエック誌のコンテンツを支援する国内外の開発パートナーも議論に貢献しました。彼ら・彼女らの関与により、共有された情報が適切かつ正確で政府の優先事項に沿ったものであることが保証されるとともに、サービス提供者とサービスを受けるコミュ

ニティ間の説明責任の強化にも寄与しました。

セッションの参加者は女性が57%、男性が43%を占めました。これは女性の積極的な関与を示す一方、主に家計を支える日常的な責任のため、男性の参加率が低いことも浮き彫りにしています。それでも女性の高い関与は、コミュニティ学習における重要な役割と、教育・社会開発への強い関心を反映しています。今後も、男性への直接的な働きかけや都合の良い時間帯での活動実施を通じ、今後のセッションにおけるジェンダーバランスの改善に努めます。

オープンな議論と共有学習の場を設けることで、これらのセッションはコミュニティの絆を強化し、教育成果向上のための協働を促進します。最も重要なのは、本事業が包括的でコミュニティ主導であり、支援対象コミュニティの真のニーズと経験に即応し続けることを保証する点です。

2.3.2 ラファエック・ジャーナリズム活動：



2025年3月18日、ラファエック学生ジャーナリスト2名が、ディリのアイタラク・ララン大統領宮殿にてジョゼ・マヌエル・ラモス・ホルタ東ティモール民主共和国大統領とのインタビューを実施

2025年度の活動期間中、本事業は、国家元首、東ティモール政府、国連機関、市民社会組織、コミュニティリーダー、全国の民間企業など、幅広い影響力のあるステークホルダーを対象に、子どもと若者によるジャーナリズム活動の一連の高い影響力のある活動を実施しました。これらの活動は、障がいのある子ども・若者を含む彼ら・彼女らの声を高め、プロジェクトの中核的介入と連動した多様なテーマ領域における有意義な参加を確保することを目的として設計されました。

ジャーナリズム活動は、小学生と若者に対し、ユニークな著名人や思想リーダーと直接交流する機会を提供しました。構造化されたインタビューセッションを通じて、参加者は自信、リーダーシップスキル、批判的思考力、コミュニケーション能力を強化しました。この体験型学習アプローチにより、子どもや若者はインタビュープロセスを主導し、質問を投げかけ、回答を分析し、東ティモールの開発優先課題に関連する問題に直接触れることができました。

これらの取り組みの成果は、ラファエック誌、ラファエックのデジタル・ソーシャルメディアチャンネル、国内主要メディアなど、複数のプラットフォームで特集されました。これらのストーリーを紹介することで、本活動は全国のほかの子どもや若者に対し、自らの志を追い求め、リーダーシップの役割を受け入れ、東ティモールの継続的な発展に有意義に貢献するよう、鼓舞し動機づけることを目指しました。

若年参加者のエンパワメントに加え、これらの取り組みは本事業の認知度、信頼性、国内での影響力を大幅に強化しました。尊敬される公人、ロールモデル、女性リーダー、活動家、外交官との協働により、事業の連携性を高め、アクセシビリティを拡大。教育と地域開発における信頼される国内ブランドとしての「ラファエック」の地位をさらに確固たるものにしました。

3. 投資と収益

3.1 移行プロセス

CARE東ティモールは、旗艦事業である「ラファエック」を持続可能な地域主導の組織へと変革するための重要な措置を講じています。CARE東ティモールはこの移行を、長期的な持続可能性の確保、コミュニティの主体性の強化、そして支援団体が求める高い専門的基準の維持を目的として設計しました。「ラファエック」の移行を支援することは、東ティモールで最も影響力のある教育・社会事業の一つに持続可能な未来を保証する手助けとなります。共に取り組むことで、「ラファエック」が今後も世代を超えて地域社会を力づけ、学びを促進し、国家の発展に貢献し続けることを保証できます。

米国政府による国際援助の停止など、最近の国際資金の流れの変化により、2025年6月にCAREの主要事業であるHATUTAN教育プロジェクトが閉鎖される事態が生じ、財政的圧迫が生じています。それにもかかわらず、CAREは「ラファエック」の独立財団化に向けた取り組みを推進する姿勢を堅持しています。

CARE東ティモールは、「ラファエック」が独立財団へ移行するための準備において着実な進展を遂げています。このプロセスの一環として、完全な事業計画と10年間の財務分析（2024～2034年）が作成され、CAREオーストラリアの経営陣および理事会に提出され、検討とフィードバックが求められました。この財務分析は、現行協定が2027年6月に終了した後の「ラファエック」に対する将来の資金支援に関するMFATの意思決定を支援するため、東ティモールとニュージーランドの両国における外務貿易省（MFAT）にも共有されました。新財団の草案となる定款も完成し、現在審査中です。

CARE東ティモールと事業管理チームで構成される専任タスクフォースが、移行調整において重要な役割を果たしました。CARE東ティモールは事業チームと連携し、将来の財団の活動を導き、強力な監督を確保するための詳細な財務・運営管理マニュアルを策定・承認しました。

CARE東ティモールは2025年8月、ラファエック社会企業ディレクターの職位を国際スタッフから国内スタッフへ円滑に移行させました。強固な財務・運営体制をさらに支援するため、事業では2025年6月に財務・運営マネージャーを採用。この役職には財務システムの構築監督が含まれ、現在財団の正式認可後の運用に向けテスト中です。CARE東ティモール管理チームはまた、移行完了後に財団を率いる準備が整った国内リーダーシップを確保するために必要な技術的・経営的スキルの構築にも投資しています。

3.2 ラファエック戦略的投資

社会的使命と事業運営の長期的な持続可能性を確保するため、本事業は収益投資戦略を採用しています。この戦略的アプローチは、事業の財務的将来を保護するだけでなく、「ラファエック」が東ティモール全域の教育とコミュニティ開発を支援する、強靱で独立した影響力ある機関であり続けることを保証するために設計されています。

従来のドナーサイクルを超えた安定的な資金調達手段の必要性を認識し、本事業はスポンサー資金の価値を最大化しつつ、パートナー資源の責任ある管理を維持する代替投資メカニズムを模索してきました。この戦略の一環として、「ラファエック」は蓄積したスポンサー収益を2つの主要金融商品に投資しました：

1. KODAオーストラリア – 株式投資ポートフォリオ。総額844,837.59米ドルが、KODAオーストラリアを通じて専門的に管理される投資ポートフォリオに投資されました。この手法により、「ラファエック」は安定した信頼性の高い国際市場において財務基盤を多様化させつつ、長期的な資本成長の機会を享受できます。
2. 東ティモール国立商業銀行（BNCTL）。追加で1,600,000米ドルをBNCTLに預託し、

有望な年間収益を提供する固定金利投資契約に基づき、BNCTLに追加で1,600,000米ドルが預け入れられました。この投資により、事業運営に再投資可能な確実な年間収入が確保されます。

「ラファエック」はこれら2つの投資チャンネルに総額2,444,837.59米ドルを配分しており、国際的なポートフォリオの多様化と強力な国内金融パートナーシップのバランスが取れたアプローチを反映しています。両投資から生み出される収益は、継続的なスポンサー支援と相まって、財政的に自立し強靱な事業構築に極めて重要な役割を果たしています。これらの資金源は、高品質な教育コンテンツの提供を継続的に保証することで、運営の持続可能性を強化する寄付金助成金を補完するものです。コンテンツの質、編集基準、配信範囲の継続的な改善を可能にし、到達困難な地域を含む全自治体の児童・若者、教員、コミュニティに届けられます。予測可能な収益源を提供し、「ラファエック」のイノベーション能力、デジタルプラットフォームの拡大、東ティモールにおける新たな教育ニーズへの対応力を強化します。

この戦略的投資は、自己持続可能なモデルを構築することを目的としています。年間収益は追加の活動への資金提供に充てられる一方、中核投資資本は長期的な安定性を確保するために維持されます。最も重要なのは、この投資戦略が「ラファエック」のより広範な組織的ビジョン、すなわち将来的な「ラファエック財団」設立への移行を直接支援する点です。この移行は、事業ベースの取り組みから、持続的な社会的影響をもたらす能力を備えた独立した国家機関へと進化する「ラファエック」にとって、重要なマイルストーンとなります。

投資による収益は、外部資金の変動にかかわらず「ラファエック」の教育サービスの継続性を確保し、組織の安定性を強化するとともに、長期的な戦略的成長を可能にします。これには、「ラファエック」が今後も世代を超えて、学習、エンパワメント、コミュニティ開発のための国家的プラットフォームとしての役割を果たし続けることが含まれます。

3.3 2025年の収益創出

2025年までに、本事業は国際・国内開発パートナー、民間セクター組織、市民社会団体、国連機関、CARE東ティモールの内部事業など多様なステークホルダーネットワークにおけるパートナーシップとスポンサーシップの連携を大幅に強化しました。これらの協働努力を通じ、15のスポンサーパートナーから213,120.28米ドルの収益創出に成功しました。

この資金は主に、4誌すべての「ラファエック」におけるスポンサー付きコンテンツと、「ラファエック」のデジタルFacebookプラットフォーム上でのパートナーメッセージ掲載を通じて確保されました。追加収益源としては、インドネシアとの国境を接するボボナロ、コバリマ、RAEOA地域における狂犬病感染疑いへの警戒キャンペーン展開のため、全国規模で配布した啓発ちらしの提供といったサービス活動が含まれます。追加サービスには、ディリ国際学校とセント・アントニオ国際学校によるラファエック誌の購入も含まれ、同校の生徒向けテトゥン語学習支援に充てられます。

調達した資金は全て、本事業の長期的な持続可能性を強化し、東ティモールにおける教育・エ

ンパワメント・コミュニティ開発を推進する「ラファエック財団」設立に向けたロードマップを支援するため、戦略的に再投資されます。

No	パートナー スポンサー	金額	重点分野
1	栄養教育支援事業 (HATUTAN)	120,000.00ドル	4誌すべてに教育コンテンツを掲載
2	国連児童基金 (ユニセフ)	17,000.00ドル	プリマ誌とコミュニティ誌における児童保護法関連コンテンツの掲載
3	COVID-19と保健システム強化事業 (COHSIS)	21,000.00ドル	教師・コミュニティ誌における健康関連コンテンツの掲載
4	災害復旧事業 (DRP)	250.00ドル	Facebookページでのエルニーニョ情報公開
5	マーシー・コープス	3,750.00ドル	コミュニティ誌における発育障害に関するメッセージの掲載
6	サンアントニオ国際学校	154.00ドル	キイク誌と教員用雑誌の購入
7	オーストラリア奨学金におけるパラディウム賞	450.00ドル	オーストラリア奨学金ポスターと動画のラファエックFacebookページ掲載
8	世界食糧計画 (WFP)	17,000.00ドル	栄養に関するメッセージをプリマ誌に掲載
9	オーストラリア農林水産省	12,863.70ドル	狂犬病予防ちらし配布
10	パシフィック・オーストラリア労働移動 (PALM)	750.00ドル	PALM研修モジュールの図版調整
11	アドベンチスト開発・救済機関 (ADRA)	500.00ドル	ストーリー出版掲載、コミュニティ誌
12	フィッシュ財団	5,150.00ドル	コミュニティ誌における栄養関連出版物
13	ディリ・インターナショナル・スクール	24.00ドル	キイク誌の購入
14	国際労働機関 (ILO)	5,000.00ドル	園芸活動のコミュニティ誌掲載
15	公平なパートナーシップ事業	8,500.00ドル	気候変動メッセージの掲載
	総計	213,120.28ドル	

3.4 戦略的・運営上の障壁

主要な戦略的課題の一つは、教育省が教員向け雑誌の印刷費用の一部を支援し、「ラファエック」への追加資金提供を確約することです。この意向は複数の高いレベルでの会合で言及されているものの、具体的な行動に移すにはさらなる戦略的議論と関与が求められています。

一部の僻地では公共交通機関が学校まで届かず、事業担当者が長距離を徒歩で移動する必要があり、安全上のリスクが生じています。この課題に対処するため、本事業では地域住民所有の馬と現地ガイドを雇用し、雑誌の輸送と支援スタッフの僻地学校への移動を支援しています。

この解決策により、雑誌が生徒や教師に確実に届けられ、読書会が維持され、スタッフが安全に現地へ往復できるようになりました。

3.5 デジタルエンゲージメントとアウトリーチ

ラファエック誌の配布と並行し、東ティモール全土のインターネット利用可能な若年層との関わりを深めるため、デジタルプレゼンスの強化を継続しました。Facebookページ、YouTubeチャンネル、公式ウェブサイトを通じて、「ラファエック」は就職情報、観光特集、レシピ、若者ジャーナリズム活動など、有意義なオンライン参加を促す実践的で魅力的なコンテンツを共有しています。

2025年12月時点で、ラファエックFacebookページのフォロワー数は174,412人に達しました。同ページは東ティモール国内で世界保健機関（WHO）、米国大使館、テレモール、オーストラリア大使館に次ぐ第5位の主要デジタルプラットフォームであり、年間95,162件のエンゲージメントを生み出しました。インタラクションの大半はリアクション（80.3%）で、シェア（11.3%）、コメント（8.4%）が次ぎました。特筆すべきは、エンゲージメントの58.5%が非フォロワーによるもので、既存のフォロワー層を超えた強力なリーチを示している点です。

「ラファエック」のYouTubeチャンネルも成長を続け、登録者数は885人、再生回数は28,567回に達し、年間で283人の新規登録者を獲得しました。チームは9本のショート動画を制作・公開し、主要活動を紹介しました。内容は若者ジャーナリズムプログラム、教育省や支援団体との学校訪問、外交パートナーや地域住民との交流などです。これらのコンテンツは「ラファエック」の活動実績を視覚的に記録するとともに、若者や開発パートナー層における認知度向上に貢献しています。

2025年、ラファエック経営陣は事業のコミュニケーション機能における戦略的再編を主導しました。コミュニケーションチームは正式に事業開発・マーケティングチームへ移行しました。この変更は、広告・パートナーシップ・スポンサードコンテンツを通じた収益創出戦略を支援するとともに、ブランドの認知度と価値を高めることを目的としています。また、この再編により、コミュニケーション、資金調達、市場関与の統合が強化され、「ラファエック」が持続可能な財団モデルへの移行を準備し、寄付金に依存しない長期的な財務的強靭性を確保する基盤が整えられました。この変革は、「ラファエック」が全国的に高品質な教育コンテンツを提供し続けながら、自立した社会企業として運営するための重要な一歩です。

若年層へのリーチ拡大のため、チームはInstagramを含む新たなプラットフォームへ展開し、TikTokも現在開発中です。これらのチャンネルでは、視覚的に魅力的なコンテンツの共有、若者向けイニシアチブの促進、そして教育・地域情報の信頼できる情報源としての「ラファエック」の役割強化を図ります。

報告期間中、経営陣は旧ラファエック・ウェブサイトの徹底的な見直しも行いました。旧サイトは技術的な品質に恒常的な問題があり、モバイル対応が限定的で、低いパフォーマンスを示していました。これらの課題はユーザーのアクセス性を低下させ、オンラインサービスの提供に影響を与えていました。

これに対応し、チームはユーザー体験の向上、パフォーマンス強化、あらゆるデバイスでの信頼性の高いアクセスを確保することを目的とした、新しくモダンなウェブサイトの開発を開始しました。2025年12月までに、新ウェブサイトの完成度は約90%に達しました。しかし、公開前に最終調整が必要な技術要件が残っているため、完全なローンは延期されています。

3.6 メディア対応

2025年を通じて、本事業では東ティモールの様々な組織から著名な国内外の人物を招いた一連のジャーナリズム交流活動を実施し、認知度とブランドプレゼンスの強化を継続しました。これらの交流活動は、国内主要メディアであるGMN TVでの定期的な生放送に加え、Facebookの「ラファエック・ライブ」、公式YouTubeチャンネルを通じて配信され、最も重要なのはコミュニティ誌とプリマ誌で特集されることです。このマルチメディア戦略により、幅広い一般公開を実現するとともに、このような交流イニシアチブを推進する信頼できるプラットフォームとしての「ラファエック」の役割を強化しています。本セッションに参加した著名な人物は以下のとおりです：

- マーク・フリードリッヒ 欧州連合駐東ティモール大使
- ミレーナ・ダ・コスタ・ランゲル 外務協力省 ASEAN 副大臣
- ホセ・マヌエル・ラモス・ホルタ 東ティモール民主共和国大統領
- マリアーノ・アサナミ・サビーノ 副首相兼農村開発調整大臣
- ロレンソ・デ・オリベイラ AERO デイリ事務局長
- ジョアニニャ・アルヴェス バイロ・ピテ村長
- マルセロ・ダ・クルス・カルヴァリョ BNCTL オペレーションディレクター
- ケイトリン・ウィルソン オーストラリア駐東ティモール大使
- フンミ・バログン 国連東ティモール常駐調整官
- ジャシンタ・デ・ヘスス・ピント氏とニコデモス・レオン・ゴンサルヴェス氏 ウルメラ・リキカにおけるウミガメ保護グループの若者活動家

上記イニシアチブの成功的な実施を確保するため、本事業はディリの教育機関や若者向け機関と積極的に連携しました。これには、有能で自信ある生徒代表を選出するための小学校との連携、障がい者団体・大学・シャナナ・グスマン読書室などの各種エンパワメント・研修機関の若者への働きかけが含まれます。ジェンダーバランスを強く重視し、選抜された参加者らは「ラファエック・キイク（教育ジャーナリスト）、ラファエック・フォインセ（文化ジャーナリスト）、ラファエック・ディプロマット（外交ジャーナリスト）、ラファエック・アントレプレナーシップ（起業ジャーナリスト）」として訓練・支援を受け、著名な要人へのインタビューを行いました。本イニシアチブに参加した学生・若者代表は以下のとおりです。

3.6.1 ラファエック・キイク学生ジャーナリスト

名前	学校	インタビュー対象	目的
ドロテア・バージニア・ダ・C. パウラ	EBF シクル 1, 2 第3校 ベヌヌク、メティナロ、ディリ	ホセ・マヌエル・ラモス・ホルタ大統領	プリマ誌 2026年第1号
セム・スロヴェンシオ・X・ディアス・サントス	EBF シクル 1,2 サン・ヴィセンテ・デ・パウロ、ベボヌク、ディリ		
リヴィア・ドス・サントス	EB カトリカ シクル 1,2 ジョアン・デ・ブリト＝エペロ	若者代表リキサ県ウルメラレヌク・タシグループ	プリマ誌 2025年第3号
アルファノ・ロペス・コレイア	EBF シクル 1,2 カイテフ		
トマジア・セレナ・ダ・シルヴァ・ディアス	EBF シクル 1,2 カメアセントロ	マリアーノ・アサナミ・サビーノ副首相	プリマ誌 2026年第2号
ナチャ・エリザベス・ラウリナ・ロペス	EB カトリカ サン ジョセ エクステルナート		
プリンス・マリック・マーティン・C. ソアレス	EB プリバドゥ・シクル 1,2 クリスタル		
合計			7名

3.6.2 ラファエック若手ジャーナリスト

名前	組織	インタビュー対象	目的
デオニシア・ヴィエガス・ピレス	UNTL	ケイトリン・ウィルソン オーストラリア駐東ティ モール大使	コミュニティ誌 2025年第3号
ヨンリ・ダ・シルバ	XGGR		
エリザベス・マグノ	RHTO		
アベル・デ・アラウジョ	XGGR	ホセ・ルイス・デ・オリベ イラAJAR所長	
ロナウジーニョ・グスマン	XGGR	ファンミ・バログン 国連常駐調整官	
マリア・ダ・グラサ・アラウジョ	クリスタル大学		
タルシザ・カサミラ・ピレス	XGRR	マルセロ・ダ・クルス・ カルヴァリョBNCTL執行 会長	コミュニティ誌 2026年第1号
アドリアーノ・ドス・サントス (障がい者の権利擁護団体)	RHTO		
ドミンガス・ディアス (視覚障が い者のためのプリンガー)	RHTO	ディリのシェフェ・スク・ バイロピテ	
ゼフェリーノ・サントス・ダ・ク ルス	XGRR		
アナ・ソアレス	RHTO	ロレンソ・デ・オリベイ ラAEROディリ執行理事	コミュニティ誌 2026年第2号
ジョアンシト・アンサル・フェル ナンデス・ダ・コスタ	XGRR		
合計			12名

4. 戦略的関与

4.1 東ティモール政府との戦略的関与



2025年9月4日～5日にディリにて教育省が主催した第2回幼児教育会議にラファエックチームが参加

本事業は、教育省、保健省、農業省、行政省、平等担当国務長官室など、複数の省庁にわたる継続的な関与を維持しています。これらの協力関係は、国家レベルの調整から地方自治体、行政レベルに至るまで拡がっており、機関間の連携を強化し、各セクターと締結した覚書に沿った活動を行うことを目的としています。

4.1.1 教育省との連携



2025年2月5日、マヌファヒ・サメにて
第2号/2025年版にかかる外部諮問委員会コンテンツレビューを実施

「ラファエック」は教育省と緊密に連携し、女子・男子の読み書き能力と計算能力の向上を図るとともに、全てのラファエック教材が国家カリキュラム指針に沿うよう確保しています。本事業は、就学前教育および初等教育に関する主要な技術作業部会に積極的に参加し、国家幼児教育会議に貢献するとともに、教育省とユニセフが共同で主導する「東ティモール教育のための共同行動（ACETL）」プラットフォームを通じて協働しています。

教育コンテンツ開発の一環として、「ラファエック」は教育省内の技術専門家（大臣首席顧問、局長、全国局長を含む）と協議し、大臣首席顧問、局長、全国局長、カリキュラムコーディネーター、ENFORDEPE リーダーシップ、パートナーシップ・協力部門、省検査官など、省全体の技術専門家と協議しています。この諮問グループは、コンテンツをレビュー、フィードバック、承認し、2025年2月5日にマヌファヒ・サメで大量生産、カリキュラム基準および省の優先事項との整合性を確保するため、4か月ごとに開催しています。

ラファエック教材の実践的活用法に関する理解を深めるため、2025年2月5日にマヌファヒ県シンパン・ティガのEBC 1.2.3校において、国・自治体政府関係者を招いた合同学校視察を実施しました。視察では、生徒・教員・家庭への雑誌配布状況、および授業における雑誌活用を通じた読解力・作文力育成の取り組みが確認されました。



2025年2月5日、教育省総局長、外務貿易省（MFAT）公使参事官、開発担当一等書記官、自治体大統領府、マヌファヒ地区警察（PNTL）司令官、および常勤教育担当全国局長がマヌファヒ地区の学校を合同視察

幼児・初等・継続教育局長アポリナリオ・セルパ・ローザ氏は挨拶において、ラファエック雑誌第1号/2025年の発行が同年の力強い幕開けを象徴すると強調し、幼児教育から小学6年生までの基礎的な読み書き・計算能力育成への「ラファエック」の長年にわたる貢献を改めて確認しました。同氏は、「ラファエック」が引き続き包括的な学習と生徒、教師、保護者向けリソー

ス（授業計画を支援する科目要約を含む）を提供し続けていくと述べ、教師向けおよび保護者には、科学、数学、歴史、体育、言語の学習強化のために雑誌を積極的に活用するよう奨励しました。また、2024年全国小学校レベル競技会で優勝し、オーストラリアへの教育視察に選抜されたマヌファヒ校の生徒たちの功績を称賛しました。声明では、生徒の成功を形作るうえで教師が果たす不可欠な役割と、東ティモール全土で質の高い教育を確保するための継続的な専門能力開発の重要性が強調されました。

さらに、マヌファヒ自治体議会議長のルイス・マルカル・ダ・コスタ・タヴァレス氏は、教育省、ニュージーランド大使館、CARE東ティモールが「ラファエック」誌2025年1/2号の創刊地としてマヌファヒを選定したことに対し謝意を表明しました。同氏は、自治体が雑誌の配布と継続的な利用を支援する姿勢を改めて確認しました。同氏は生徒、教員、保護者に「ラファエック」を定期的に活用し、読み書き能力と計算能力を強化するよう促すとともに、家族や学校に対し、同誌を自治体全体の子もたちにとって重要な学習資源として保存し、大切にしよう呼びかけました。

4.1.2 保健省との連携

保健省との連携は、性・生殖に関する健康と権利、栄養、家族計画、その他の重要な公衆衛生テーマに関連する内容の正確性と質の確保に焦点をあてています。主要な政府関係機関には、保健促進局、栄養局、保健センターおよび地方レベルの代表者が含まれ、これら代表者は地方自治体レベルで実施される「ラファエック」による地域対話セッションに参加しています。

4.1.3 平等担当国務長官との連携

「ラファエック」はまた、ジェンダー平等とジェンダーに基づく暴力（GBV）の防止を促進する取り組みにおいて、平等担当国務長官と提携しています。これには、ラファエック誌やデジタルプラットフォーム全体にGBVの認識と防止に関するメッセージを統合すること、および全国的な「ジェンダーに基づく暴力に対する16日間の行動」キャンペーンへの積極的な参加が含まれます。

4.1.4 国家行政省との連携

全自治体の14村で毎年開催される地域対話イベントを通じ、本事業では地域リーダー、村長、行政ポスト当局、地域警察、その他の地元関係者と連携しています。これらのセッションは、政府プログラムに対する地域の認識向上、サービスへのアクセスと利用促進、国家開発イニシアチブに対する地域の主体性の強化を目的としています。

4.2 民間セクター関与



2025年11月21日、ラファエック起業家ジャーナリストは、ラファエック・民間セクター連携イニシアチブの一環でエアロ・ディリCEOのロレンソ・デ・オリベイラ氏へのインタビューを実施

2025年、ラファエック事業は民間セクターの主要産業におけるステークホルダーとの連携を強化・拡大しました。これには、エアロ・ディリ航空、東ティモール国立商業銀行、ティバル湾港湾のリーダーたちとの接触や議論が含まれます。

民間セクターとの連携は依然として困難な課題となっています。多くの企業は社会的影響よりも商業的利益を優先しているため、この課題に対処するため、事業では戦略的アプローチを採用しました。具体的には、ラファエック誌やソーシャルメディアプラットフォームを通じた可視化とプロモーション機会と「ラファエック・ジャーナリスト起業家育成イニシアチブ」による全国的な報道機会を民間企業に提供しています。このアプローチは、企業の成長と認知度向上を支援するとともに、「ラファエック」と民間セクターパートナー双方に利益をもたらす社会的取り組みへの投資を促すことを目的としています。

こうした初期段階の関与は、長期的な協力関係の基盤構築に寄与しています。潜在的な資金提供に関する協議が始まっており、事業では将来の収益創出と「ラファエック」の持続可能性を支えるパートナーシップの可能性を模索中です。

4.3 ビーチ清掃イニシアチブ



2025年5月1日、「ラファエックの友の会」はビーチ清掃活動を実施

事業チームは2025年5月16日、欧州連合大使代表団、オーストラリア次席大使代表団、ニュージーランド公使代表団をはじめとする主要な開発パートナーおよび「Movimentu Tasi Moos」、「Lenuk Tasi」、「Xanana Gusmao Reading Room」の現地パートナー団体、CAREと事業スタッフの参加を得て、海岸清掃活動を成功裏に実施しました。活動範囲は米国大使館ビーチからモタエル・ガーデンまでの沿岸地域を対象とし、環境と公衆衛生に重大なリスクをもたらす、プラスチックボトル、袋、缶、ガラスなどの再生可能な非分解性廃棄物の除去を行いました。この共同の取り組みは、人通りが多い公共空間の清潔さを取り戻すことに貢献しただけではなく、政府、開発パートナー、市民社会が環境管理への共通の取り組みを強調するものでした。重要なことに、この取り組みは2025年5月19日に開催される東ティモール独立回復23周年記念行事に向けた国家準備を支援するものでした。この行事には多くの国際的・地域的な要人が参加することが見込まれています。清掃活動は、「ラファエック」がコミュニティの福祉促進と、東ティモールの持続可能な開発を推進する強固なパートナーシップ構築において継続的に果たしている役割を浮き彫りにしました。

4.4 ボランティアプログラムの取り組み

4.4.1 JICA数学教師ボランティア

東ティモールの数学教育における継続的な課題、特に暗記学習の多用に対処するため、事業チ

ームはJICAボランティア教師3名と連携し、首都ディリの3つの小学校で数学を専門に教える教員とともに、2025年版第2号と第3号の数学内容の見直しを行いました。この取り組みの一環として、そのうち1名の日本人教員はCARE事務所で2日間の遊びを基盤とした数学ワークショップを主導しました。目的は、CARE事務所における子ども中心の数学ワークショップ設計能力の強化と体験型学習アイデアをラファエック誌の現在・将来号に向けて魅力的なコンテンツへ転換する能力の向上を図るものでした。

内容レビューとワークショップでは、国家教育方針とCAREの子ども中心学習原則に沿った実践的な遊びベースの教授法が紹介されました。執筆者、イラストレーター、デザイナー、編集者が協働し、体験型活動を通じて新たな教材を作成。これらは、論理的思考、問題解決、幾何学、算術、測定、データ解釈のスキルを育む数学概念を共同で開発されたものです。全ての活動はシンプルで魅力的、かつ文化的関連性を考慮して設計され、東ティモール全土の子どもたちの算数能力向上に貢献しています。

4.4.2 ニュージーランド海外ボランティアサービス (VSA)

本事業は、東ティモールにおけるニュージーランド海外ボランティアサービス (VSA) との提携を通じ、シェリル・タイラー氏の第二期派遣を確保しました。同氏は2025年7月1日から2026年7月30日まで教育アドバイザーとしての役割を継続します。延長された任務では、ウェブサイトやモバイルアプリケーションを含む「ラファエック」のデジタル開発支援、映像制作・アニメーション・ゲーミフィケーション技術の向上に注力します。また教育制作チームの長期的な能力強化に向け、直接的な技術指導も行います。同氏の貢献は、「ラファエック」のデジタル・教育コンテンツ事業における強固で持続可能な基盤構築に不可欠な役割を果たしています。

タイラー氏の存在は、チームがより広範なVSAネットワークと連携するうえでも貢献し、事業スタッフが同氏による半日ワークショップの経験共有セッションを受講する機会を得ました。同氏は国際ジャーナリストとして約25年の専門経験を有しています。同氏はまた、オーストラリア大使館の外交チームおよび教育省の教育方法論チームとの関係構築を支援し、「ラファエック」のパートナーシップネットワークをさらに強化しました。

さらに、VSAマネージャーとの継続的な連携を通じ、本事業はウィリアム・ピゴット氏を新たなコンテンツ開発アドバイザーとして採用することに成功し、同氏は2025年9月に正式に就任しました。同氏の主な役割は、ストーリーテリング、リサーチ、創造的ライティングに関する集中的なトレーニングとメンタリングを提供することです。また、雑誌のナラティブデザインやビジュアルレイアウトについて定期的にフィードバックを行い、「ラファエック」の教材の質向上に直接貢献しています。

VSAとのパートナーシップは、事業チームのスキルと自信の構築において引き続き重要な役割を果たしています。これは教育メディア制作の継続的な改善を支援し、東ティモール全土の学習者に向けて高品質で魅力的かつアクセスしやすいコンテンツを提供するという「ラファエック

ク」の取り組みを強化しています。

5. モニタリング、評価、説明責任、学習

モニタリング・評価・説明責任・学習（MEAL）チームは、生徒、教師、保護者がラファエック誌の内容をどのように関わっているのかを理解するため、詳細な評価を実施しています。これらの評価では、児童の読解力、識字活動への関与、およびより広範な学習成果の変化を検証し、東ティモールにおける基礎教育の強化に対する本事業の貢献を裏付ける確固たる証拠を提供しています。

報告期間中、MEALチームは全国183校の学校と296世帯（オエクセ/アンベノ地区とアタウロ特別行政区を含む）において、生徒・教員・保護者対象のインタビューを1,129件実施しました。回答者は男性503名、女性626名でした。

2025年には、全自治体の未就学・小学生、教員、地域住民から32件の受益者の事例を収集しました。

質的理解を深めるため、MEALチームはコバリマ、アイナロ、マヌファヒ、リキサ、ボボナロ、バウカウ、ヴィケケ、マナトゥト、アタウロで計50回のフォーカスグループディスカッション（FGD）を実施。内訳は以下のとおり。

- 教員対象FGD 19回
- 保護者対象FGD：20回
- 生徒対象のFGD 10回

フォーカスグループディスカッション（FGD）には合計409名が参加し、内訳は教員67名（男性26名、女性41名）、保護者222名（男性84名、女性138名）、生徒120名（男子64名、女子56名）でした。これらの議論では、ラファエック誌の使用状況、関連性、認識された価値について探求し、実践的な提言を収集しました。

保護者（男性84名、女性138名）、生徒120名（男子64名、女子56名）で構成されました。これらの議論では、ラファエック誌の活用状況、関連性、認識される価値を探求し、今後のコンテンツ開発に資する実践的な提言を収集しました。

さらにMEALチームは、教育者が授業計画や指導にラファエック教材をどのように統合しているかを検証するため、授業観察を通じて雑誌が教育実践の改善をいかに支援するかを評価しました。この分析は、特に脆弱なコミュニティにおいて、雑誌がより双方向的で学習者中心、資源豊富な学習環境の構築にどの程度寄与しているかを判断するのに役立ちます。

HATUTANプロジェクトII中間評価も2025年1月から3月にかけて実施されました。中間評価では、洞察の広さと深さを確保するため、定量的・定性的手法を統合しました。対象校全てにお

いて学校調査と構造化された授業観察を実施し、2年生2,553名が識字能力評価を完了、1,069世帯調査で家族レベルの要因を把握しました。補完的な定性的手法として、フォーカスグループディスカッション、キーインフォーマントインタビュー、子どもに適した参加型演習などを実施しました。

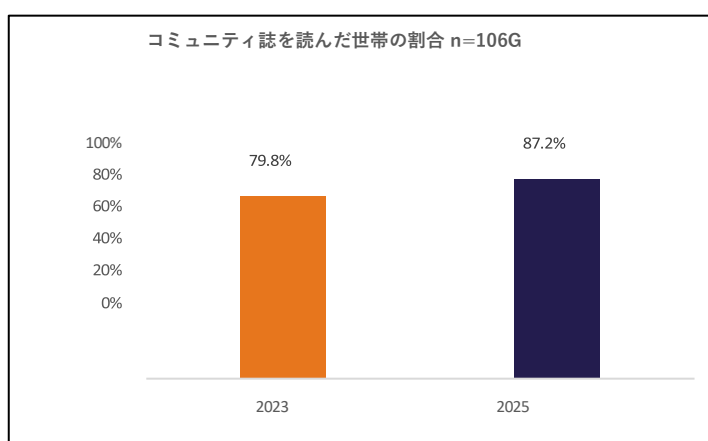
全体として、これらのモニタリングと質的フィードバックのプロセスは事業の説明責任を強化し、継続的な学習と適応を支援します。これにより、「ラファエック」は全国的に学習成果と地域社会への関与を効果的に支援する、関連性が高く質の高い教育リソースであり続けることが保証されます。

5.1 調査結果：コミュニティ誌

5.1.1 コミュニティ誌の利用状況

2025年度を通じて実施された「ラファエック」の定期モニタリングには、合計296名の保護者回答者が参加し、うち178名（60.14%）が女性、118名（39.84%）が男性でした。インタビュー対象の保護者全体の91.22%が、家庭での実践的で楽しい学習活動を支援するため、子どもとともにラファエック誌を読み活用していると報告しました。これらの活動には、文章構成、文字・数字の識別、基礎幾何学、パズル、宿題支援などが含まれます。この一貫した利用パターンは、多くの家庭が識字能力向上と家庭学習促進のツールとして同誌を積極的に活用していることを示しており、家庭内での学習習慣構築に対する本出版物の意義ある貢献を実証しています。

「ラファエック」のモニタリング調査では、保護者のおよそ4分の1（24%）が雑誌を使って物語を読んでいると報告したことも判明しました。この結果は、家庭での読書文化を育み、保護者が子どもに読み聞かせる関与を高めるツールとしての雑誌の価値を反映しています。さらに、保護者の98.65%が「子どもが自主的に雑誌を読んでいる」と回答しており、若い読者層における高い関与度、意欲、アクセシビリティを示しています。この顕著な自主利用状況は、子どもの自律的な学習と読解力育成を支援する雑誌の効果を裏付けています。



HATUTAN II中間評価の結果はこれらの知見を裏付けています。コミュニティ誌を受け取った世帯のうち、87.2%が同誌を読んだと報告しました。これは「ラファエック」の定期モニタリングデータよりわずかに低いものの、おおむね一致しています。世帯は同誌を家族への読み書き指導や、健康・衛生・手工芸・農業・育児などの知識習得に活用したと報告しました。雑誌を使って家族に読み方を教えたと報告した保護者の割合は、2023年以降9ポイント増加しました。

5.1.2 健康と栄養

地域社会はまた、ラファエック誌に掲載される健康・栄養情報からも恩恵を受けています。同誌は、家庭の衛生改善、疾病予防、子どもの健全な発達支援といった就学準備の鍵となる要素を促進するための実践的な指針を提供しています。MEALチームは学校レベルで保護者対象のフォーカスグループディスカッション（FGD）を実施しました。これらの議論からは、日常的な健康習慣に関する重要な知見がいくつか明らかになりました。

「食事前には石けんで手を洗い、子どもが登校する前に栄養のある朝食を用意する」（EBFカトリカ・サンアントニオ・バリボ＝ボボナロ校でのFGD）

「生後6か月までは完全母乳育児を行い、子どもが病気にならず健康を維持できるようにする」（EBF.1.2 ラホメア・ボボナロ校 FGD）

「犬に噛まれたら、すぐに安全な水で洗い、保健センターまたは病院へ連れて行くこと」（EBF.C 1.2 スカビララン・コバリマ校でのFGD）

これらの知見は、保護者が雑誌から健康と栄養に関するメッセージを受け取るだけでなく、それらを内面化し日常の習慣に適用していることを示しており、出版物が家族の福祉向上と子どもの発達促進、特に学校と保護者が共同で子どもの教育を支える責任を共有する意識の向上において果たす役割を実証しています。

これらの知見は、HATUTAN中間評価の定性調査結果とも一致しています。データは、ラファエック誌が良好な衛生習慣の促進において重要な役割を果たしていることを示しました。雑誌について尋ねられた複数の保護者は、それを読んだことを認め、健康・食・衛生習慣に関する情報源として同誌をあげています。

「はい、変化がありました。私の観察によれば、多くの人々にとって手洗いの行動は『ラファエック・マガジン』の存在によって促されているからです。親も子供もこの雑誌を読み、それは保健分野への貢献となっています。『ラファエック・マガジン』は指針となりました。優れた指針です。これまで多くの人々が手洗いや自身の身体のケアといった行動にあまり注意を払ってこなかったからです。」父親対象フォーカスグループディスカッション（FGD）、エルメラ

5.1.3 農業と生計手段

ラファエック誌は、実践的で地域に即した農業技術や小規模事業活動の促進において重要な役割を果たしています。地域住民からは、有機肥料の作り方、家庭菜園の始め方、地元のレシピの作り方を学んだとの報告がありました。これらの活動は、家庭の食料安全保障を向上させるだけでなく、雑誌で学んだケーキや工芸品などの製品を販売することで収入創出の機会も生み出しています。FGDの結果から、家族は、簡単な手順で再現しやすく低コストの内容を高く評価していることが明らかになりました。学校で行われたフォーカスグループディスカッションに参加した世帯員は、ラファエックから学んだことを証言しています：

「テンペとバナナケーキを作って利益を得て、家族の収入が増えました」（EBFカトリカ・サンアントニオ・バリボ＝ボボナ口校でのFGD）

「バナナケーキを売ってお金を稼ぎ、子どもの学費を支えられます」（EBFベボロ・マナトゥット校FGD）

5.2 調査結果：教員版

5.2.1 ラファエック教員版の活用

2025年、MEALチームは全国183校で広範な教員モニタリングを実施しました。対象となった教員は計199名で、就学前教育から小学校1年生から6年生までをカバーしています。このうち男性教員は38.19%（76名）、女性教員は61.81%（123名）でした。さらに67名の教員がグループディスカッションに参加し、ラファエック教材の使用に関する知見を共有するとともに改善提案を行いました。

回答者の95.98%が教室で教員向け雑誌を使用していることを確認しました。データは、教員が授業支援や授業計画の主要な参考資料として雑誌を一貫して活用していることを示しており、実践的な図解や指導上の助言を提供することで授業をより容易かつ魅力的にしています。多くの教員が学校に雑誌を保管し、授業準備のために自宅に持ち帰っています。

5.2.2 教育実践への影響

調査結果は、指導手法における積極的な変化の明確な証拠を示しています。

- 95.48%の教員が、雑誌が自身の教育実践の改善に寄与したと報告。
- 94.97%が体罰は有益ではないと同意しており、これはラファエック誌のコンテンツにおける一貫したメッセージの影響を受け、子どもにやさしい肯定的指導法への理解が深まったことを反映しています。
- 最も低い達成度を示した指標は、教員が少なくとも1つの教室運営手法を挙げられる能力であり、児童中心の学習戦略については86.43%でした。これは、革新的かつ学習者中心の手法における教員のスキルをさらに向上させるための的を絞った支援の必要性を示唆して

います。

5.2.3 教室での活用

インタビューとフォーカスグループディスカッションにおいて、教員たちは数学に関連する雑誌コンテンツの活用実例を共有しました。具体的には、引き算、足し算、掛け算、割り算、また、侵食や海洋生態系に関する簡単な実験についての科学コンテンツも提供し、生徒が理解しやすいように実践的な例や具体的な指導法を示しました。

5.2.4 配布とアクセシビリティに関する教師のフィードバック

教員たちは、学校で定期的に入手できるラファエック誌に対して一貫して高い満足度を示しました。教材は授業計画と授業実施を強化する貴重な補助資源であると指摘。調査結果によれば、同誌は教員が広く採用する実践的・学習者中心の教授法を促進しており、具体的には、

- ゲームを活用したより活発な教室づくり (80.90%)
- ポジティブな教室の規律を支えるための基本ルールの設定 (83.42%)
- 学習意欲を高めるための実演の活用 (81.91%)
- 評価と称賛による生徒の動機付け (85.43%)
- メンタリングとフォローアップ支援の提供、特に特別な支援を必要とする学習者に対して (83.92%)

これらの結果は、ラファエック誌が活動型で包括的な学習を促進する簡便で双方向的なツールを提供することで、教育実践の強化に重要な役割を果たしていることを示しています。一貫して肯定的なフィードバックは、雑誌配布を継続し、ラファエック教材をより広範な教員支援戦略に統合することで、学校全体の教室の雰囲気と生徒の関与をさらに改善する必要性を強調しています。

5.3 調査結果：特別教員版

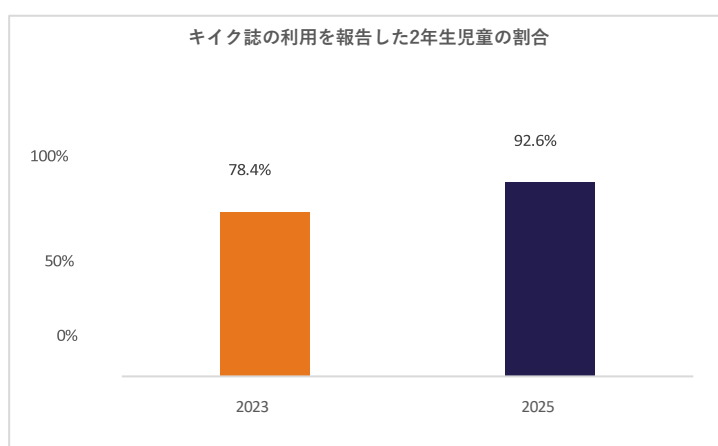
通常の教師モニタリング活動に加え、MEALチームは過去の教員インタビューに参加した類似の教員を対象に、「特別教師パッケージ」に関する追加インタビューを実施する機会を設けています。特に焦点をあてるのは、年1回配布される重要な補助教材としてのこれらのパッケージの使用経験と視点です。

調査結果によると、回答者の93.97%が特別教材パッケージを受け取っていると回答し、84.93%が授業で当該教材を使用していることを確認しました。ただし、面談時に教材を提示または携帯できた回答者は76.38%に留まりました。さらに、84.92%の回答者が「教材が指導実践の改善に役立つ」と同意しており、教材の採用率が高く、指導方法への統合が進んでいることを示しています。

5.4 調査結果：キイク誌

5.4.1 キイク誌の活用状況

未就学児、小学1年生、小学2年生計321名の児童を対象に、MEALチームが授業への参加状況をインタビューと観察調査を実施しました。このうち男子は151名（47.04%）、女子は170名（52.96%）でした。調査結果によると、96.26%が「キイク誌」を年3回受領していると回答。98.44%が雑誌を自宅に持ち帰り、保護者や兄弟姉妹とともに読んでいると報告。95.95%が「雑誌のおかげで授業がより楽しくなった」と述べ、97.51%が「家庭と学校の両方で雑誌を利用している」と回答しました。この結果は、雑誌配布が安定して実施され、ほぼ全ての対象受益者に届いていることを証明し、生徒の学習意欲向上に肯定的な影響を与えていることを示しています。

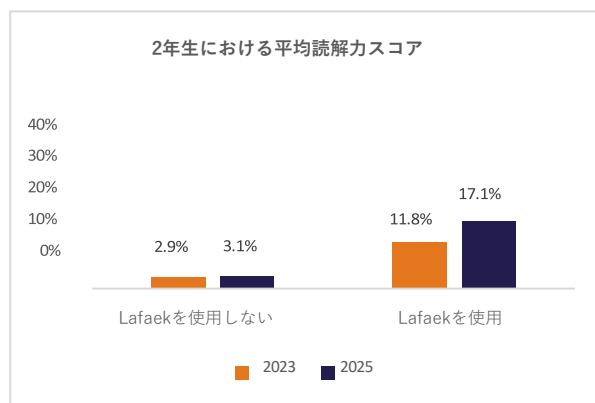
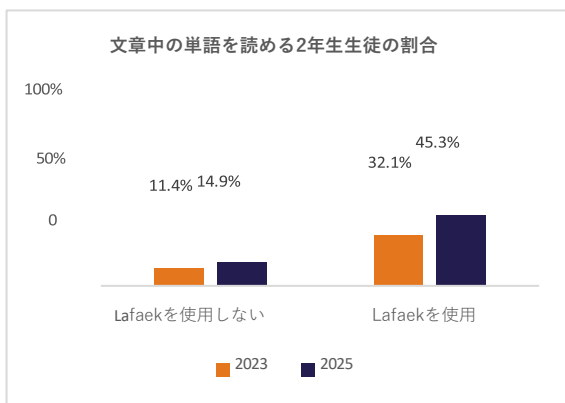


HATUTAN II中間評価の証拠はこれらの知見を裏付けています。評価では、2年生のうち92.6%がラファエック誌を利用していると報告しており、2023年のHATUTAN I最終評価で報告された78.4%から大幅な増加を示しました。この増加は、コロナ後の学習意欲の著しい回復を反映しています。また、初等教育段階の学習支援における「ラファエック」の役割の拡大を浮き彫りにしています。

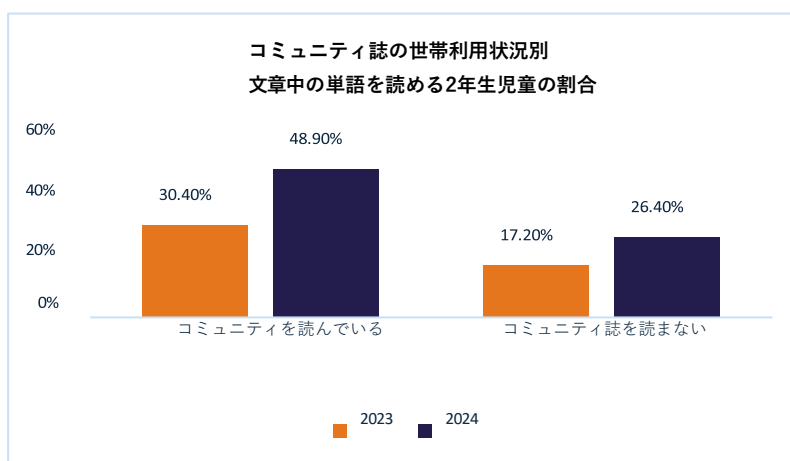
5.4.2 識字能力への影響

HATUTAN II中間調査では、2023年以降、ラファエック使用者の2年生における単語読解能力の獲得率が非使用者と比較して著しく上昇したことも判明しました。具体的には、ラファエック使用者の上昇幅が13.5%であるのに対し、非使用者はわずか3.5%でした。この差は統計的に有意です。

生徒による「ラファエック」の自己申告使用は、一貫して高い読解スコアと関連しています。さらに横断的分析では、ラファエック使用を自己申告した生徒の読解スコアが、雑誌を使用しない生徒と比較して時間経過とともに有意に上昇していることが示されました。



世帯によるコミュニティ誌の自己申告利用と生徒の読解成果には、統計的に有意な正の効果が見られます。2023年以降、単語を読める2年生全体の割合は全体的に増加していますが、保護者がコミュニティ誌を利用している生徒ではその増加幅が2倍に達しました。平均読解力スコアは雑誌を読まない世帯では9.2ポイントの上昇に対し、雑誌利用世帯では18.5ポイントの上昇がみられました。



調査結果 プリマ誌

2025年、MEALチームは全国でプリマ誌を受け取った小学3～6年生の生徒313名（女子155名＝49.52%、男子158名＝50.48%）へのインタビューを実施しました。調査結果によると、回答者の98.72%がプリマ誌を年3回受け取り、自宅に持ち帰っていることを確認しました。また98.04%が「学校と自宅の両方で使用している」と報告しました。興味深い発見として、保護者のコミュニティ誌への関与について尋ねたところ、84.66%の生徒が「保護者が自宅で読んでいる」と回答しました。

リーダーシップの役割について、回答者の99.35%が、教員や校長から割り当てられた特定の科目に関する議論を主導する際、学内外の学術討論会で学校を代表する際、また学校からラファエック・ジャーナリストに選出され国内外の重要人物へのインタビューを主導する際、学級委員長やグループリーダーの役割を担えると回答しました。調査結果は、プリマ誌が広く利用さ

れ、学校内外で児童の学習体験に好影響を与える包括的な実態を示しています。同誌は女子のエンパワメントとリーダーシップ育成、保護者関与の強化においても重要な役割を果たしています。

5.4.3 授業観察

2025年を通じて、モニタリングチームは64校で授業観察を実施。対象は就学前教育と小学1年生（個別インタビューが困難な学年）に限定しました。観察では、教員版で提案された指導実践の効率性、教室運営、生徒の関与度、教材と補助ツール、学習意欲、学習プロセスへの積極的参加促進を評価。観察結果から、観察対象教師の86.25%が教員版で提案された手法を活用していることが確認されました。

さらに、87.22%の焦点が、生徒の関与、実践的な実験、観察プロセス自体に関連する教授法の適用におかれていました。さらに重要なことに、観察期間中、怒鳴る、体罰、いじめなどの懲罰的対応の兆候はわずか6.41%しか認められませんでした。

観察結果によると、ほとんどの教員は、低学年の学習成果を向上させるために、生徒中心の手法を強く取り入れた安全で魅力的かつ適切な学習環境を構築しています。

キイク誌の内容は、生徒が教材を素早く理解できる、簡潔で短い文章、ゲーム、デザイン、イラストを用いて開発されています。これらはまた、授業をより楽しくし、生徒の積極的な交流、議論、問題解決、教育ゲームへの参加を促す活動を準備するための具体的なガイダンスも提供し、生徒の主体的な学習プロセスを育みます。

6. 横断的課題：

6.1 GEDSI（ジェンダー平等・社会包摂・保護）とセーフガード

2025年、本事業は、雑誌コンテンツ、MEALツール、デジタルプラットフォーム、能力開発活動、ステークホルダーエンゲージメント、戦略的パートナーシップを含む全ての構成要素に、ジェンダー平等、多様性、社会的包摂（GEDSI）とセーフガード原則を統合するうえで大きな進展を遂げました。

6.1.1 性的ハラスメント・搾取・虐待の防止とセーフガード

プログラム品質ユニット（GPQU）と共同で実施した年次再研修により、スタッフとパートナーのGEDSI、性的ハラスメント・搾取・虐待防止（PSHEA）、児童保護、安全確保に関する理解が強化されました。これにより、事業活動、パートナーシップ、ステークホルダー関与全体において、より包括的で説明責任のある実施が支援されました。

事業チームは、ジェンダーおよびPSHEA担当窓口として、国家調整フォーラムに積極的に参加

し、GEDSIの進捗状況、ジェンダーに基づく暴力（GBV）、PSHEA遵守状況、児童保護、男性・男子への関与（EMB）イニシアチブに関する四半期ごとの最新情報を提供しました。継続的な改善を促進するため、チームは年間を通じて3回の内部振り返りセッションを実施し、進捗状況を評価するとともに、GEDSI、PSHEA、児童保護戦略の精緻化を図りました。

MEALチームとの連携により、モニタリングツールにはCAREのジェンダーマーカー要件に沿った強力なGEDSI配慮が組み込まれ、意図しない結果を特定・追跡する仕組みも含まれました。本事業のジェンダーマーカー評価は、周縁化されたグループへの到達と平等への根本的障壁の解消に重点をおいています。この取り組みは、声を高め、社会正義を促進し、すべての人にとって包摂的な成果を支援することで、ラファエックモデルを強化します。

コミュニティレベルでは、ラファエック誌やソーシャルメディアプラットフォームを通じた安全確保情報の共有が継続されました。全4誌にCAREホットラインと通報情報が掲載され、生徒・教員・若者・地域住民が安全かつ秘密裏に懸念事項を報告できる体制が整っています。

「ラファエック」の全国的な展開範囲と地域社会との緊密な連携を考慮すると、明確でアクセスしやすく信頼できる通報メカニズムの維持は引き続き優先課題です。このシステムは、コミュニティ、パートナー、ドナーからの苦情やフィードバックを迅速に受け付け対応するよう設計されており、特に脆弱な立場にある女性や女子のニーズに重点をおいています。

教育省「教育におけるジェンダー作業部会」のジェンダー担当窓口として、本事業は四半期ごとの会合にも参加し、政府の優先事項に沿った安全確保、児童保護、ジェンダーに基づく暴力（GBV）防止の取り組みについて報告を行いました。

6.1.2 GEDSI関連内容と活動

ジェンダー平等と社会的包摂は、「ラファエック」の中核的介入の核心であり、持続可能な開発成果の主要な推進要因として認識されています。2025年を通じて、これらのテーマは「ラファエック」の4誌すべての雑誌、ソーシャルメディアコンテンツ、コミュニティ対話活動に統合されました。

ラファエック教育制作マネージャーとプロジェクトのジェンダー担当者は、CARE東ティモールのジェンダー専門家と緊密に連携し、東ティモール政府のジェンダー枠組みとCAREのジェンダー・包摂戦略に沿ったコンテンツの選定・開発を行いました。この協働により、初期構想段階から内部・外部レビュープロセスに至るコンテンツ開発が推進され、CAREのジェンダーにかかるコミットメントとの整合性が確保されました。また、MEALツールにもGEDSIの考慮事項を組み込み、包摂とジェンダー平等に関連する成果を体系的に追跡できるようにしました。



ラファエック若手ジャーナリストは、2025年3月25日、ディリ・ファロールのAJAR事務所にて、東ティモールにおけるジェンダーに基づく暴力（GBV）撲滅に向けた男性・男子層の関与促進に関する知見を得るため、AJAR所長へのインタビューを実施

ジェンダーに基づく暴力（GBV）防止の取り組み強化のため、本事業は複数の市民社会組織と連携しました。この活動の一環として、「ラファエック」の若手ジャーナリストがAJAR所長にインタビューを実施し、東ティモールにおけるGBV根絶に向け男性・男子がより積極的な役割を果たす方法に関する知見を収集しました。このインタビューはコミュニティ誌第3号（2025年版）に掲載され、男性・男子の意識向上と前向きな行動変容を促す一助となりました。

ジェンダーに基づく暴力に反対する16日間の行動期間中、本事業はソーシャルメディアを通じて、対象を絞った教育メッセージを共有し、相互尊重を促進し、いじめを防止し、より安全な学校・地域環境を支援する取り組みを推進しました。また、特に女性の起業を支援する団体を含む女性権利団体との連携を強化し、2025年発行のコミュニティ誌全体にわたり女性の経済的エンパワメントに関する知見を反映させました。

これらの取り組みが相まって、実施のあらゆる分野においてジェンダーに配慮した包括的なプログラム構築という事業の取り組みが大きく前進しました。

6.1.3 ジェンダー作業部会

内部イニシアチブに加え、事業のジェンダー・アドボカシー担当者は、他の開発パートナーとともに教育省のジェンダー作業部会に積極的に参加しました。同部会は、サイクル1および2における児童の平等な参加を確保するためのガイドライン策定を支援し、児童保護措置を強化するとともに、教育省のジェンダーに基づく暴力に関する国家行動計画に沿った取り組みを行っています。

ジェンダー作業部会は四半期ごとに会合を開き、ジェンダー平等の進捗状況を検討し、学

校におけるいじめや暴力に対処し、学校レベルでの課題に対する実践的な解決策を特定しています。2025年の議論では、生徒が関与した事件や学校職員の不適切な行為を取り上げ、明確かつ適切な対応メカニズムの確立に焦点をあてました。

さらに、本事業はジェンダー・公平担当国務長官が主導するネットワークと連携しました。これらのフォーラムを通じて、チームは現場レベルの観察結果を共有し、新たな課題を議論し、学校・地域社会・若者向け活動におけるジェンダー平等、公平性、社会的包摂を推進するための実践的解決策を提案しました。こうした連携により、地域レベルの懸念事項が政策議論に反映され、適切なフォローアップ措置が講じられることが保証されました。

6.2 子どもと若者のエンパワメント

本事業は、リーダーシップの育成、声の拡大、包括的参加の促進を通じて、東ティモールの子どもたちや若者たち——男女を問わず、障がいのある個人も含む——にとって変革をもたらすプラットフォームとしての役割を継続しています。革新的なジャーナリズム活動を通じて、「ラファエック」は若者に自らの可能性を探求し、国家開発に有意義に関与するためのスキルと自信を身につけさせています。

1年を通じて、若手ジャーナリストたちは国内外の著名人、ロールモデル、女性リーダー、活動家、外交官らへのインタビューを実施。これらの取材記事はラファエック誌全号に掲載されるほか、国内主要メディアやラファエック公式Facebookページでも公開され、全国数千人の読者に届いています。

多様な視点と感動的な物語を紹介することで、同誌は変革の触媒として機能し、若い読者がリーダーシップの役割を志し、東ティモールの発展に積極的に貢献するよう動機づけています。この取り組みは、学生や若者にジャーナリストとして活動する機会を提供することでエンパワメントを図り、リーダーシップスキル、意思決定力、自信、批判的思考、コミュニケーション能力、リーダーシップ能力を育成することを目的としています。また、女子や障がいのある若者の平等な参加を確保することで包摂性を促進し、GEDSI（ジェンダー平等・エンパワメント・多様性・包摂性）への「ラファエック」の取り組みを強化しています。

6.3 関連性

ラファエック誌の開発は、引き続き教育省の就学前・初等学校向け国家カリキュラムに沿って進められています。内容は、テトゥン語とポルトガル語の両方で、読み書き・計算・数学・自然科学・社会科学・芸術・文化を中核科目として網羅しています。2025年度第2-3号および2026年度第1号向けの全生徒用教材・教員用教材は、8名の経験豊富な教員と、数学内容の審査に特化したJICAボランティア数学教員3名からなるグループにより事前審査されます。このプロセスに続き、教育省技術作業部会、CARE、ドナー、プロジェクトチームメンバーで構成され

る外部諮問委員会チームによる審査が行われます。この諮問グループが最終承認を行い、雑誌は印刷・配布されます。技術チームの関与により、内容は事業の品質基準を満たし、指導要領に沿い、東ティモール教育システムの現実を反映したものとなりました。

ラファエック誌は教師、生徒、家族から広く高く評価されています。簡潔な文章、カラフルなイラスト、インタラクティブなデザインで知られ、これらが若い学習者の読解力と計算能力の向上に役立ちます。生徒たちは学校でも家庭でも、しばしば年上の兄弟姉妹や保護者の助けを借りながらこれらの雑誌を活用しています。

1年を通じて、事業チームは教育大臣の職員（国レベルおよび自治体レベル）、ニュージーランド大使を含む関係者と同行し、2025年2月にはマヌファヒのEBC 1.2.3 Simpang Tiga校を、同年11月にはボボナロのバリボにあるEBF 1.2 Oeklese校を訪問しました。これらの訪問では、雑誌の配送状況、生徒の関与度、教材が教室でどのように活用されているかを評価しました。

6.4 効率性

ニュージーランド外務省との助成金契約に基づき、本事業は2025年に総額1,500,289ドルの予算を受領しました。本事業は2025年度に計画された全活動を遂行し、配分予算を全額使用しました。透明性と説明責任を確保するため、詳細な成果ベースの財務報告書を添付資料1「ラファエック財務報告書」に掲載。

年間活動計画の全活動は、国家・自治体・学校レベルにおける教育省との緊密な連携のもと実施されました。この連携により、2025年の3学期にわたり、生徒・教員・地域コミュニティへの雑誌配布が推進されました。

最も遠隔の学校、道路も電気も通信手段もない地域に届けるため、事業の管理チームは通常の配布活動を越えた取り組みを行いました。2025年3月、チームは自らマナトゥト県ラクルバルにあるEBF 1.2 ヌル・ウム校へ赴き、馬を雇って2025年1月号誌を5～6時間の徒歩道程で運搬しました。同様の取り組みは2025年2月、エルメラのEBF 1.2 コイレキ・アツァベ校でも行われ、スタッフは現地ガイドと協力し4時間歩いて雑誌を届けました。これらの生徒の多くにとって、ラファエック誌は唯一の学習教材です。生徒も教師もチームをあたたく迎え、支援への深い感謝の意を表しました。

制作チームはまた、2025年3月発行版と2026年1月発行版のコンテンツ開発サイクルを完了し、外部諮問委員会のレビューや教員ワーキンググループワークショップを含め、全ての制作目標が達成されていることを確認しました。

モニタリングチームは全国で定期的な現地調査、インタビュー、データ収集を実施。その結果は本年度のプロジェクト報告書に反映され、今後の版における改善と計画立案の指針となります。

事業開発・マーケティングチームは、社内外の既存および将来の潜在的なパートナーとの関係

構築を継続し、今後数年間の新たな協力機会の特定を支援しました。

6.5 持続可能性

CAREと「ラファエック」は、教育省との強固で信頼できるパートナーシップを継続して維持しており、この関係は長年にわたり揺るぎないものとなっています。この協力関係は、戦略的レベルと運営レベルの両方で、国家、自治体、学校レベルにおいて継続することが期待されています。最近の協議により、「ラファエック」が事業の持続可能性を支える長期的な印刷体制の構築を検討する道が開かれました。教育大臣は明確な関心を示し、教員向け雑誌の印刷を小部数で部分支援することから始め、段階的に拡大する可能性を示唆しました。その一方、教育省の印刷機使用コストは予想を上回っており、持続可能な方策を見出すためには教育省と外務貿易省（MFAT）とのさらなる協議が求められています。大臣は将来的な財政的支援への意欲を示しているものの、具体的な措置はまだ講じられておらず、持続可能なアプローチを見出すためには教育省とMFATとのさらなる協議が必要となっています。

2017年以降、「ラファエック」は事業の持続的運営のためスポンサーシップモデルを採用しています。これによりパートナー団体は、ラファエック誌・動画・ソーシャルメディアを通じて教育啓発メッセージを発信できます。

2025年、本事業は開発パートナー、CARE内部プロジェクト、市民社会組織、複数の民間セクター関係者（計15団体）から総額213,120.28ドルのスポンサーシップを確保しました。同時に、CAREと事業チームは「ラファエック」の独立財団化に向けた準備を継続。これにより東ティモール政府資金や現地機関との直接連携を望む国際ドナーからの資金調達が容易になります。

全体として、「ラファエック」の持続可能性に向けた取り組みは、強力なドナー関与、慎重な財務計画、創造的なスポンサーシップ戦略、そして的を絞った投資を統合したものです。良好な進展が見られる一方で、財政的圧力と教育省からの未履行の約束は、継続的な注意を必要とする課題として残っています。

7. 別添書類および添付書類

7.1 別紙A：事例

7.1.1 教員版の事例

よりよい授業成果のための共同学習



教員版を活用し生徒に測定を指導する
小学校教員アニト・ボスコ・メンドンサ

私はアニト・ボスコ・メンドンサ。コバリマ自治体のハラス・アイン小学校で教鞭をとっています。授業計画は国家カリキュラムと教科書に基づいていますが、生徒の興味を引き、理解しやすい方法で授業を行うことに時に困難を感じます。ラファエック誌は貴重な授業支援ツールとなり、指導法の強化、授業準備、学習活動の管理をより自信を持って行う手助けをしてくれます。内容はカリキュラムに沿っており、明確で実践的な方法で提示されているため、実際の教室で容易に適用できます。最近では、ラファエック誌の教材を用いた容量測定の算数授業を実施しました。乗法と除法を通じて容量を学ぶ活動により、授業はより魅力的になりました。空のボトル、マーカー、水といった簡素な教材を使用。生徒たちはとても積極的に参加し、特に同じテーマを生徒たちが読んでいるプリマ誌にも掲載されていたことが大きな要因でした。

数学の学習以外にも、栄養学や芸術・文化に関する記事のほか、自治体の教育者による実践事例を読むことで多くの学びを得ています。こうした事例は、私の教育実践をさらに向上させようという意欲を掻き立ててくれます。

教員版のような実践的な教材を通じて、教員と生徒はともに学び、より確かな学習成果を上げることができます。

生徒の声（スジャナ・アルフィ・ダ・クルス・グスマン・デ・アンドラーデ）

「ミリリットルからキロリットルまで、容量の測り方や重さの理解について学べてとてもうれしかったです。プリマ誌で容量やかけ算、リットル、わり算についても読んだので、より深く理解できました。先生や友だちと一緒に練習することで、さらに多くのことを学びました」



生徒たちは教員の指導のもと、水筒の容量を測定

7.1.2 教員特別版の事例

音楽を活用した低学年リテラシー強化



ジャスティニヤ・サメントが教室で活用した教員版に掲載のアルファベットソング

私はジャスティニヤ・サメント。ヴィケケにあるライタフ小学校で1年生の担任を務めています。低学年の読み書き指導は、特にテトゥン語を初めて学ぶ生徒たちにとって困難を伴います。1年生の指導に戻った際、多くの生徒が従来の読み方では文字を認識するのに苦労していることに気づきました。授業計画では歌を用いた学習支援が提案されていましたが、適切な教材が手に入りませんでした。教員向けラファエック誌を通じて、教室で使えるテトゥン語アルファベットの歌を知りました。毎日この歌を使い、歌唱と簡単なゲームを組み合わせることで、授業をより双方向的で楽しいものにしていきます。

変化は明らかでした。生徒たちはより熱心で自信に満ち、授業に積極的に参加し、歌に合わせて口ずさむようになりました。時が経つにつれ、テトゥン文字をより容易に認識・識別できるようになり、授業への関与も向上しました。

この経験を通じて、特に低学年の識字教育において、教師向けラファエック誌のような実践的で教室ですぐに使える教材が、教員を支援し学習成果を向上させることを実感しました。

7.1.3 コミュニティ誌の事例

大豆から成功へ：コロナ禍における小規模ビジネス構築



コミュニティ誌を掲げるイネス・ペレイラは、バナナケーキやテンペなどのレシピを今も使い続けている

私はイネス・ペレイラ。ポボナロのバリボ・ヴィラに住んでいます。初めてコミュニティ誌を知ったのは、学校から雑誌を持ち帰った子どもたちを通してでした。家族で一緒に読むことで、子どもたちの学習をサポートしています。この雑誌を通じて、健康や栄養に関する実用的な情報や、バナナケーキやテンペの作り方といった簡単なレシピを学びました。初めてテンペを作ったときは、酵母を少なめに使ったためうまくいきませんでした。あきらめずに雑誌を再び手に取り、練習を重ねた結果、ついに成功したのです。2020年、コロナ禍で、私たちを含む多くの家庭が支援物資として大豆を受け取りました。当初は使い道がわかりませんでした。雑誌のテンペレシピを思い出し、再挑戦を決意しました。地域では多くの人々がテンペを食べていなかったためです。

大豆を隣人から安く買い、テンペに加工し始めました。結果は励みになりました。大豆3キロを1ドルで購入し、テンペを販売することで、16ドルから20ドルの利益を得ました。需要が増えるにつれ、投資を増やし生産を拡大しました。夫は全工程で私を支え、大豆の準備やテンペの包装、バイクでの近隣地域への配達を手伝ってくれました。

テンペ販売の収入は、子ども用品や家計費の補填に役立ちました。また収益の一部でバナナケーキを作り、自宅や学校で販売。家族のための食べ物だったものを、子どもたちも買い求めるようになり、新たな小さな収入源に。やがてこの利益を再投資し、米パックの販売も始めました。

雑誌から学んだ実践的なスキルと自信が、困難な時期に小規模ビジネスを始める原動力となりました。他の保護者、特に女性への私のメッセージはシンプルです。一学んだことを実践してください。小さな知識が家族にとって大きな変化をもたらすのです。

7.1.4 プリマ誌の事例

雑誌は学びを楽しむ手助けとなり、夢を信じる力を与えてくれました



数学と科学の知識を高めるために使用するプリマ誌を掲げるシンディニア・アイレス・デ・ジーザス・ダ・シルバ

私はシンディニア・アイレス・デ・ジーザス・ダ・シルバ。11歳で、ボボナロ自治体のタイメア小学校5年生です。プリマ誌を読むのが好きです。授業の内容をよりよく理解でき、学習がより面白くなるからです。私の夢は、いつか医者になって病気の人を助けることです。学校でしっかり学ぶことは将来のために大切です。プリマ誌は特に数学と科学の科目で支えてくれています。数学が私の好きな科目です。この雑誌を通じて、分数の比較方法を含む分数の扱い方を学びました。最初は分数が難しかったのですが、雑誌の例題や活動が段階的に理解する手助けをしてくれました。今では授業で数学の問題を解くとき、自信が持てるようになりました。プリマ誌は、学び続け、最善を尽くすよう励ましてくれます。学ぶことが楽しいことだと気づかせてくれ、知識が夢を叶える助けになると教えてくれます。

7.1.5 キイク誌の事例

海を回す実験：海流についての子どもの実験



キイク誌の活動を通じて、エドゥアルダのような子どもたちが、海の中で水がどのように動くかを学ぶ手助けをしています

私はエドゥアルダ・デ・カルヴァリョ・アルヴェス・ダ・シルヴァ。8歳で、ディリのタウル・マタン・ルアク小学校の2年生です。キイク誌を通じて、読み書きや絵を描くこと、科学のテーマを探求することを学んでいます。

雑誌で海流について読んだ後、エドゥアルダは自宅でその実験を試みたくなりました。兄弟といとこに手伝ってもらい、水とペットボトルを使って水がどのように動き、渦を巻くのかを調べました。

この実験を通じて、エドゥアルダは海水が海でどのように動くかを理解できました。さらに学んだことを弟に説明し、弟の恐怖心を和らげ好奇心を育む手助けもしました。

キイク誌を通じた学びは、エドゥアルダのような子どもたちが学校でも家庭でも、科学をシンプルで楽しい方法で探求するきっかけとなります。

7.2 別添B：オンラインコンテンツ リンク情報

「ラファエック・ジャーナリスト」によるインタビューの様子は以下のURLからご覧いただけます。

- ・マルク・フリードリッヒ 欧州連合駐東ティモール大使 (2025年1月23日)

<https://www.youtube.com/live/-Sp32qcMMUo>

- ・ミレーナ・ダ・コスタ・ランゲル 外務協力省ASEAN副大臣 (2025年1月28日)

<https://www.youtube.com/live/tEEhL8VWkqY>

- ・教育省、外務貿易省、CARE/LLMによるマヌファヒ島学校合同訪問 (2025年2月6日)

<https://www.youtube.com/watch?v=xUi1DzU3Hd4>

- ・ジョゼ・マヌエル・ラモス・ホルタ 東ティモール民主共和国大統領 (2025年3月18日)

<https://www.youtube.com/live/4WpMN6DhCEc>

- ・ケイトリン・ウィルソン オーストラリア駐東ティモール大使

https://www.facebook.com/share/v/1AUvkrw4R4/?mib_extid=wwXlfr

- ・ジャシнта・デ・ヘスス・ピント氏、ニコデモス・レオ・ゴンサルベス氏、
ウルメラ・リキカ海亀グループの青年活動家 (2025年5月13日)

<https://www.youtube.com/watch?v=LqzFhPaODj0>

- ・ホセ・ルイス・デ・オリベイラ AJAR ディレクター (2025年5月29日)

<https://www.youtube.com/live/VophYVVf4jl?si=eUrMA NxAABaEoxW>

- ・ファンミ・バログン 国連東ティモール常駐調整官 (2025年8月25日)

<https://www.facebook.com/share/v/1Eu7EnHELp/>

- ・マルセロ・ダ・クルス・カルヴァリョ BNCTL運営ディレクター (2025年9月18日)

<https://www.facebook.com/61553442867334/videos/1822134058377303/?mibextid=rS40aB7S9Ucbxw6v>

- ・ジョアニニャ・アルヴェス バイロ・ピテ村長 (2025年9月29日)

<https://www.facebook.com/61553442867334/videos/1846067185996164>

- ・マリアーノ・アサナミ・サビーノ・ロペス 副首相兼農村開発調整大臣 (2025年11月11日)

<https://www.facebook.com/reel/1394661578918800/? mibextid=rS40aB7S9Ucbxw6v>

・ **ロレンソ・デ・オリベイラ AEROディリ** (2025年11月24日)

<https://www.youtube.com/watch?v=uj-Dlo3J6DE>